

やの 矢野 玄道 (1823~1887)



国学者。喜多郡阿蔵村(現、大洲市)出身。18歳で松山の^{くさか}日下伯巖に入門。後に京に上って^{じゆんせい}順正書院に入り伴信友、^{ばんのぶとも}頼支峰らと交わる。弘化4(1847)年、^{ひらたあつたね}平田篤胤が江戸(現、東京都)で開いた^{いぶきのや}平田塾気吹舎に入門、また^{しやうへい}昌平黌にも入塾した。嘉永4(1851)年、再び上洛して本覚寺や^{きやうきやうどう}鳩居堂などで国学を講じ、以降慶応年間まで^{かながら}惟神の道(神道)による祭政一致体制を目指して建言活動を朝廷や薩摩・長州両藩に行った。また、古典の研究を深め『皇典翼』、『神典翼』をはじめとして国学関係の多くの著述を進める一方、京都を中心に王政復古運動に専念した。著作は700巻、門人は1000人以上に及ぶ。明治維新では、国学者として唯一の国家構想をまとめた意見書「^{けんせん}猷芹簞語」を、^{いわくらとも}岩倉具視を通じて明治政府へ提出し、政治の改革にも功績を残した。

略歴

文政6(1823)年11月17日	喜多郡阿蔵村有松に生まれる。
天保11(1840)年	松山の日下伯巖に入門
弘化2(1845)年	京に上り順正書院に入る。
弘化4(1847)年	平田塾気吹舎に入門
嘉永4(1851)年	幕府の昌平黌に入塾。その後、父・道正の病報を受け、帰郷
嘉永5(1852)年	京都に移り住み、本覚寺や鳩居堂などで子弟を教える。
安政2(1855)年	皇学校設立の建白書を作成
慶応元(1865)年5月	『皇典翼』の執筆にかかる。
	神祇官復興運動の行動が疑惑を招き、新撰組に逮捕される。
	皇学校設立を薩長両藩に建言する。
	『神典翼』の執筆にかかる。
慶応3(1867)年	朝廷で国立学校設置の方針が決まり、学頭に任ぜられる。
	「猷芹簞語」を提出する。
明治元(1868)年12月13日	皇学所開校。同所講官に任ぜられる。
明治4(1871)年	^{とやまあたこ} 外山・愛宕国事犯事件への関わりを疑われ逮捕、郷里での謹慎処分となる。
明治10(1877)年	再出仕、修史館御用掛となる。
明治11(1878)年	宮内省御用掛となる。
明治15(1882)年	皇典講究所の初代文学部長になる。
明治17(1884)年	図書陵御用掛となる。
明治19(1886)年	平田篤胤に依頼された『古史伝』の続修を完成させる。
明治20(1887)年5月19日	阿蔵村の自宅において、65歳で永眠

(写真提供：大洲市立博物館)

〈関連図書〉

- ・『愛媛の先覚者3 矢野玄道・三上是庵』 愛媛県教育委員会 1965年
- ・越智通敏『国学研究叢書4 矢野玄道の本教学－その生涯と思想－』 錦正社 1971年
- ・大洲市立図書館『大洲市立図書館蔵 矢野玄道文庫分類目録』 大洲市立図書館 1973年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第13巻 二宮敬作・三瀬諸淵・矢野玄道』 愛媛県教育会 1986年
- ・矢野玄道『神典翼』全4巻(復刻版) 第一書房 1986年
- ・『矢野玄道先生没百周年記念誌』 矢野玄道先生没百周年記念事業実行委員会 1987年

〈主な収蔵資料〉…(P194, 5)

〈ゆかりのある場所〉…(P267, 15~16)